

巻頭 中学校のコンピュータの更新にあたって

- スタディノートは必需品 -	中山和彦	1
スタディノートの上手な使い方ヒント集	余田義彦	2
スタディノート授業実践報告		
文字を使って会話をしよう	塩尻市立広陵中学校	5
お店やさんしらべ	滑川市立西部小学校	7
三人の武将大百科	滑川市立西部小学校	8

contents

お知らせ	
98年度ECO News	
更新カードをお送り下さい	10
日程決定 '98 スタディ夏の研修会 第一報	10
ちょっとご注目!	10
私のおすすめ品	余田義彦 10

中学校のコンピュータの更新にあたって

- スタディノートは必需品 -

21世紀教育研究所 中山 和彦

学校でのコンピュータの利用状況をみると、高等学校ではほとんどの場合、とくに普通高校では全く活用されておらず、埃をかぶっている。小学校と中学校とを比較すると、小学校では全校的な体制を組んで全ての教科で利用している例が多い。それに対し、中学校では情報基礎のみに使われ、全教科で活用している例は比較的少ない。このような違いが生じた原因は、学校におけるコンピュータの位置づけの違いにある。

新学習指導要領で、中学校の「技術家庭」の一選択科目として「情報基礎」が設置された。「情報基礎」は、「限りなく必修に近い選択」ということが文部省の担当者によって言われ、いつの間にか必修科目のような位置づけがなされるようになった。その「情報基礎」のためにということで、中学校にコンピュータが急いで導入された。

そのような経緯があるので、コンピュータは情報基礎のためのもの、という位置づけをしている中学校が少なくない。また、コンピュータやコンピュータ室の管理は、技術担当の教員がしている例が多い。そのため中学校では、学校にコンピュータはあっても、その位置づけは木工や金工の道具と同じで、他の教科で使おうと思うと、技術の先生にお願いをして、特別に使わせてもらわなければならないというような状況になっている学校が少なくない。

このような状態になった責任は、技術以外の教科の先生が負わなければならない点が多い。それは、中学

校にコンピュータが導入されることになった時に、もしそうだったら自分はどうしよう、どうなるか、と慌てふためいた先生が多かった。しかし、技術家庭の一科目の教具として使うということで、ほっと安心して、自分には関係ないものとして知らん顔をして、面倒なことを技術の教師に押しつけてしまったという歴史があるからである。

現在、中学校のコンピュータは、更新・入替えの時期をむかえている。21世紀の高度情報化社会で生きていく人となる、今の中学生の教育のためには、コンピュータを情報基礎で用いるだけでなく、マルチメディア能力を活用して、いろいろな教科・科目で多様な使い方をしてもらうことが必要である。過去の経緯を拭い去り、新しく、全校的な立場でコンピュータの位置づけ、利用を考えなければならない。そのためには、次のような二つの方策をとることが薦められる。

第一は、各教科、各学年を網羅する形で、コンピュータ利用委員会を組織する。委員会の職務分掌上の位置づけを明確にしておく。この委員会は、コンピュータの管理・運営の責任をもつ。また、特別な能力のある人だけでなく、誰でも簡単に学習指導のために使えるのだということ、校内研修を実施し、全教員で体験してもらう。

第二は、すべての生徒が喜んで、どの教科でも、それぞれの教科の特徴に合わせて、簡単に使えるソフトを導入することである。そのためには、「スタディノート」が最適であると推薦できる。

スタディノートの上手な使い方 ヒント集(1)

東京家政学院筑波女子大学 余田 義彦

スタディノートの操作はとても簡単です。少し触ってみるだけで、すぐに使えるようになります。でも、先生からちょっとしたアドバイスがあれば、子供達はもっと上手に使いこなせるようになります。そのためのヒントを、今回から数回にわたって、紹介したいと思います。



<< ノートの上手な使い方 >>

題名のつけ方

題名は一人ずつ別のものをつけさせる。

「工場で見えたことをノートにまとめましょう。題名は『工場見学』にしましょう。」という調子で、子供達に同じ題名をつけさせてしまう先生がよくいらっしゃいます。でも、こういった指導のしかたは、あまりお勧めできません。掲示板やデータベースにノートを集めたとき、同じ題名の情報ばかりが並んでしまうからです。

スタディノートの利用に限りませんが、私達はどの情報に目を通すかを題名で判断していることがよくあります。ところが、どれにも同じ題名がついてしまうと、その判断が出来なくなります。また、題名に個性がないため、情報に目を通したいという気持ち起きなくなります。発信した情報が読み手に届くかどうかは、題名で決まることが多いのです。次に述べる方法で、子供達に個性ある題名をつけさせて下さい。

題名には書きたいことを要約して書かせる。

ノートの題名には、一般的なものでなく、その子が特に書きたいと思っていることを要約して書かせます。「新聞の見出しを書くつもりで題名をつけなさい」というように指導するのもよい方法です。題名としてどのようなものが適当か、もう少し具体的な例を使って説明したいと思います。

次に挙げる題名で、左側のよくない例と右側のよい例を見比べてみて下さい。よくない例は、題名がいずれも漠然としています。そのため、題名だけでノートの内容を推察できません。それに対し、よい例では、題名を見るだけで何を言いたいのか推察できます。

ノートの題名の例

よくない例	よい例
実験結果	リトマス紙は赤くなった。
突然ですが助けて下さい	困った。天びんが釣りあい ません
だれか教えて下さい	江戸時代の農民について教 えて
感想です	本当にそうなのですか？
意見	山田さんの考えに賛成です。
1	寒色でレモンを描いてみま した
情報です	図書室に参考になる本があ ります

題名で使える文字数は15字です。俳句の17字より2字少ないですが、これだけあれば言いたいことをまとめることができます。まとめきれない場合は、3番目の例のように尻切れトンボになっても構いません。また、読点(。)もなく構いません。言いたいことが伝われば、それでよいのです。

題名つけを通して自分の考えをまとめさせる。

題名を考えることは、同時に、自分は何を考えているのか、何を伝えたいのかを振り返って考えることにもなります。

[書こう]で[新しいノート]を選びますと、最初に題名を尋ねてきます。この段階では、まだ書きたいことが十分にまとまっていないかも知れません。それでも、適当に題名をつけさせず、少し時間をとって書きたいことを考えさせるようにして下さい。それから、本文を書き終えたときも、すぐに[終わり]を選ばせず、最初につけた題名と本文の整合性を吟味させるようにして下さい。そして、あっていない場合は、どちらかを書き直させて下さい。

学習を促進する知的活動のことを、教育心理学では学習方略と呼んでいます。その一つに「理解監視」と呼ばれる活動があります。これは自分の理解状態を自問し、一貫性をチェックするというものです。ノートの題名と本文を読み比べて、吟味させることは、「理解監視」の活動を促すこととなります。

情報のまとめ方

情報が多い場合は、複数のノートに分けて整理するようにします。例えば、四季の草花についてまとめさせることを考えてみましょう。この場合、全ての情報を一つのノートに整理するよりも、春の草花、夏の草花...というように分けて別々のノートに整理する方が、後でそのノートを利用しやすくなります。

文字のサイズは用途に応じて選ばせる。

プレゼンテーション(発表)のとき、小さな文字がぎっしりと書き込まれたノートを提示している例

をよく見かけます。ノートに情報をまとめるとき、それをどのように使うかまで考えが及ばないのでしょうか。ノートは用途に応じて文字の大きさを使い分ける必要があります。このことを子供達にさりげなくアドバイスして下さい。一般的な目安を書いておきますと、次のようになります。

文字の大きさ

新聞・作文・レポートなど.....ふつう
発表など少し大きい~大きい

文字数はページあたり数行を目安にさせる。一つのページには、最大で原稿用紙2枚分の文字を入力できます。しかし、そんなに文字を詰め込みますと、後で読む気が起こらなくなります。文字は1ページあたり数行程度を目安にして下さい。言いたいこと一つ、つまり文章で言えば段落に相当する量を一つのページに入力します。そして、エンターキーを押すと、次のページに次の段落分が表示される...という方法でまとめていきますと、読みやすいノートが出来上がります。

大事なことを最初に書かせる。言いたいこと、重要なことは、出来るだけ最初のページの上の方に書かせましょう。最初の部分しか読まない人がいるからです。言いたいことを最初に持ってくる表現スタイルは、情報過多社会の中で重要性が増しています。

ジャンプボタンで情報を関連づけさせる。スタディノートの重要な機能の一つに、ジャンプボタンがあります。あるページで文字や絵をマウスでクリックすると、それに関連づけられた別のページが表示されるというものです。ジャンプボタンの使い方には、次の5通りが考えられます。

ジャンプボタンの使い方

目次型.....目次やメニューなどを表示し、項目を選ぶと関連ページへジャンプ
注釈型.....言葉や画像のある部分を選ぶとその注釈ページへジャンプ
クイズ型.....選択肢を示し、選択肢に応じたメッセージのページへジャンプ
ページめくり型.....ボタンのクリック操作により別のページへジャンプ
復帰型.....ジャンプ先から起点となるページへ復帰するためのジャンプ

目次型と注釈型で情報を関連づける活動は、学習方略の適用に役立ちます。学習方略については先に少し触れましたが、「理解監視」の他に「体制化」や「精緻化」などの活動もあります。体制化とは、学習材料の各要素をばらばらでなく相

互に関連をもったまとまりとして理解することです。そのための具体的活動としては、グループ分け、図表による整理、概括化やキーワードの関連づけなどがあげられます。目次型や注釈型で情報を関連づける活動は、体制化を促すこととなります。

精緻化とは、新しい情報を既に知っていることと関連づけて理解することを言います。そのための具体的活動としては、イメージ化したり、自分の言葉で言い換えてみることで、類推、要約などがあげられます。注釈型でジャンプボタンを使い、自分の言葉でコメントを付けたり説明を加える活動は、精緻化を促すこととなります。

クイズ型とページめくり型は、演出効果を高め、魅力的なノートを作るのに役立ちます。クイズ型では、選択肢の正誤に対して、参考書の書き写しでなく、自分の言葉で解説を加えさせるようにすれば、精緻化を促すことにもなります。また、ページめくり型は、情報を最初から全部見せず、見る人に疑問を持たせた上で、ジャンプボタンをクリックさせる。そして、その後、残りの情報を表示する...といった演出に使えます。

読みやすさに配慮させる。画面の上の方に文字がならんでいるノートをよく見かけます。でも、ノートの文字は、画面の1行目左端から書き始める必要ありません。画面の上の方ではなく、中央付近に書く方が、画面のバランスがよくなります。また、行の終わりについても、右端いっぱいまで書いて折り返す必要はありません。文節や句点などきりのよいところで改行しておく方が読みやすくなります。それから、文字の装飾についても、色、サイズ、かざりを、何通りも使わず、すっきりした画面作りを心がけさせる方がよいと思います。これらについては、あれこれ指示をせず、友達のノートと自分のノートを見比べさせ、読みやすい画面の条件を考えさせるのも一つの方法です。

キチント機能で図を素早く描かせる。ノートの[絵をかこう]には、キチント機能というユニークな機能があります。これは、キーボードのCtrlキーを押しながらマウスを操作すると、始点や終点をそろえた正確な図が描けるというものです。マウスで図を描きますと、思い通りに描けず苦労することがよくあります。ところが、この機能を使いますと、グラフや数直線など学習活動でよく使う図が、鉛筆と定規で描くよりも素早く簡単に描けてしまいます。

デジタル画像の扱いには一工夫を。デジタルカメラやイメージスキャナが、学校でも気軽に使えるようになってきました。ノートにも、デジタル画像を取り込んで表示できる仕組みが用意されています。ただ、その機能を使うとき、注意して欲しいことがあります。二人の子供が蝶を観察したとしましょう。A君はデジタルカメラで撮影して、その

画像をノートに載せました。B君はスケッチをして、それをノートに描き写しました。この活動で多くを学んだのはどちらの子供でしょうか。この場合、蝶について色々なことを尋ねると、B君の方が詳しい説明をしてくれる可能性が高いと思われます。デジタルカメラは、蝶の画像を美しく正確に短時間で記録してくれます。しかし、撮影者であるA君の目は、蝶の特徴を十分捉えていないかも知れないからです。デジタル画像を安易に使うと、このように観察のプロセスを省略することになる可能性があります。

記念写真のようなものをノートに載せたい場合は別ですが、それ以外の目的でデジタル画像を使わせる場合には、次のような作業を取り入れることをお勧めします。

デジタル画像を使うときの工夫

- ・画像の中で自分が注目した部分を矢印や丸印で明記させる。
- ・画像のことを文章で説明させる。
- ・被写体を手に持ったり、使っている様子を撮影し、自分と被写体との関わり方を表現させる。
- ・紙の上にスケッチしたものをデジタルカメラで撮らせる。
- ・観察対象の様子や動作を体全体で表現させ（ジェスチャー）、それを分解写真で撮らせる。
- ・漠然と撮らせず、構図を工夫させて本当に撮りたいものを撮らせる。

素材情報の保管・再利用にフォルダを活用させる。

引き出しに小物を整理するときのことを考えてみましょう。整理上手な人は、引き出しの中に小さな箱を幾つか用意し、それに小物を分けて整理します。コンピュータでも情報を整理するために、この小さな箱のような役割をするものを使います。それを、コンピュータ用語でフォルダと呼んでいます。大きな箱の中に小さな箱を幾つか入れることができるように、フォルダの中にさらにフォルダを入れることもできます。ノートでは、文章やグラフィックスなどノートの素材となる情報を保管するために、このフォルダを使います。これを上手に使えば、ノートの作成効率を大幅に向上させることができます。

ノートのフォルダで、よく使うものには次の2種類があります。[みんなのフォルダ]は、共同利用のためのフォルダです。この中の素材は、誰でも自由に利用できます。また、この中に誰でも手持ちの素材を自由に追加することができます。デジタルカメラの画像をここに入れるようにすると便利です。誰もが自由に利用できるようになるからです。ここには、文章も入れておくことができます。ですから使い次第で、文字入力にかかる作業負担を減らすことができます。また、ちょっとした絵をここに入れて公開し、みんなに使ってもらうこともできます。このような手作りカット集が出来てきますと、ノートを使う楽しみがさらに増えます。

[自分のフォルダ]は、私的利用のためのフォルダです。自分だけで繰り返し何度も使いたい素材や他の人に消されると困る素材は、これに入れて使います。

情報を分類・整理・図式化させる。

子供達の調べ学習を見ていますと、本やホームページに書かれていることをただ書き写しているだけのことがあります。また、友達がまとめた資料を評価させても、「絵がかいてあってよかった」程度の感想しか返さない子供が大勢います。どのようにすることが情報をまとめることになるのか、よく理解していない子供が多いのです。ノートに情報をまとめさせる活動でも、先生からの発問、指示、アドバイスは非常に重要です。ノートに情報をまとめさせるとき、次のような工夫を奨励して下さい。

情報をまとめる時の工夫

- ・見出しを付ける。
- ・箇条書きする。
- ・グループ分けする。
- ・表にまとめてみる。
- ・言葉と言葉の関係を図式化してみる。
- ・要約させる。
- ・自分の言葉で言い換えさせる。
- ・図の情報は言葉で、言葉の情報は図で表現させる。

これらの活動は、学習方略の適用に役立ちます。子供達は、このような活動を通して深く学ぶための方法を身につけていくのです。

ノートを使って語りかけさせる。

子供達は、読み手を意識して文章を書くことが苦手です。しかし、電子メールや電子掲示板、データベースなどを使って、友達と情報のやりとりをさせますと、徐々にそのような文章が書けるようになります。友達と情報のやりとりをさせる場合、次のような活動を奨励して下さい。

友達と情報をやりとりするときは

- ・相手が言っていることを言い直す。
- ・よりはっきりさせるために情報をつけ加える。
- ・相手の意見の中で疑問な点や、説明部分で大事な点が抜けていることを指摘する。
- ・相手の考えをよく聞き、自分の考えと違うところ、同じところを指摘する。
- ・あてはまる例、あてはまらない例をあげてみる。

これらの活動は、学習方略の適用に役立ち、内省と情報のやりとりを通して理解を深めていく学習を促進します。

作業の後半で自己評価の機会を設ける。

ノートに情報をまとめさせるとき、作業の後半で少し時間を設け、自分のノートを自己評価させて下さい。そのとき、自分の情報のまとめ方を吟味して、どこがいいか、どこをどうなおせばもっとよくなりそうか考えさせることが重要です。それを書き留め、その方針に沿って作りなおすところまでやらせて下さい。これは学習方略の「理解監視」に相当する活動です。

スタディノート授業実践報告

長野県塩尻市立広陵中学校

文字を使って会話をしよう

The focus will be on the production of communicative language learning and Holistical Education in classroom.

小林 智芳



小林先生

校種：中学校 / 学年：2年 / 教科：英語 / 単元名：特設単元「文字をつかって会話をしよう」

使用教科書：New Horizon English Course Book 2

達成目標

さまざまな人物や動物をキャラクター化した友と電子メールの交換を通して、英文文字会話することができる。

行動目標

ア 写真に写っている人物もしくは動物についてキャラクター化を行い、英語を使って表記することができる。(表現の能力)

イ 他の写真の人物、動物にメールを送ることができる。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

ウ 英語で手紙(電子メール)の交換を重ねながら、受け取った手紙の内容を読みとり、それに関連した返事を書くことができる。(表現の能力)(理解の能力)

エ 異種、異文化の相手とメールを交換しながら、相互の文化の違いを比較することができる。

(言語や文化についての知識・理解)

学習活動の概要

単元の展開(本時は3時間扱い中の第2時)

ラウンド1 <前時：コミュニケーションの元となるデータを生徒自身が作る活動>

自分の意志で選択した写真に「名前」「年齢」「生活環境」などに関わる情報を自分なりに想像してキャラクター化を行い、英語を使って表記する。

生徒は壁に貼られた「人物」「動物」の写真の中から1枚選び、その写真からイメージされる名前、出身地などのデータを創造していく。人物、動物の持っている品物や服装、色、背景の様子にも関心を向ける。また、写真上には写っていない生活環境までイメージを膨らませイメージされた事を英語でノートに書く。

言語材料としては want to ~ / need to ~ をターゲットセンテンスとして扱う。

それぞれのキャラクターが誰によって創られたのか、生徒同士にはわからないようにするために、スタディノートへは「ゲストID」を使ってログインする。

ラウンド2で送信するメールの元原稿として使えるように、創造したキャラクター情報をプロフィールとして保存する。



「よし、これにしよう」

ラウンド2 <本時：他の友達の作り出したキャラクターと相互交流する活動>

他のキャラクターとスタディノートでメール交換をしながらネットワークを広げていく

キャラクター化が終わった後、写真は再度、壁に戻される。生徒は壁に貼られている人物、動物の写真を観察する。そして、その中から興味がわき、関わってみようと感じた写真の人物、動物とメール交換を始める。

本時では自分以外の「もの」の存在に気がつき、その「もの」への関わりを持つとする力を育てる。人間同士はもちろんのこと、異文化、異種の交流が生まれる。生徒は写真番号と一致するID(例：3番のキャラクターはID=9003)でスタディノートにログインしているので、写真につけられている番号をもとにしてメールを送信する。

生徒は相互交流した相手の情報(名前、所在、その他の付帯情報)をワークシートに記録し、ラウンド3の活動に備える。



「どの人とメール交換しようかな・・・」

ラウンド 3 <次時：相互交流する中で異種・異文化を理解する活動>

英語で手紙（電子メール）の交換を重ねながら、受け取った手紙の内容を読みとり、それに関連した返事を書く。また、異種、異文化の相手とメールを交換しながら相互の文化の違いを比較する。

異種、異文化との接触を行い、相互に繋がった生徒たちは、他の意思を知るとともに、自己の存在を再認識する。その中で、互いがつつみこみ、つり合おうとする行為が生まれてくる。私がほしい物と、相手がほしい物の関係。私が必要な物と相手が必要としている物の関係。私に必要な物と相手に必要な物の関係。私がしたい事と相手が見たい事との関係。相互交流というネットワーク活動を通じた繋がりの活動の中で、このような関係を認識し、そこから、「私たち」という概念が芽生える。

下の例はキャラクター化に用いた写真と基礎データの一部、さらにノート上で交換されたメッセージの抜粋である。

(キャラクター番号 20)

My name is Suzan.
I'm from Kenya. I'm 13
years old. <後略>



<メッセージの抜粋>

15 : Hello. My name is Tommy.
I'm from south. What is your name ?
20 : Hello, Tommy. Thank you mail.
My name is Suzan. I'm from Kenya.
Where do you want to go?
I want to go to America.
15 : I want to go to another country.
And I want to be free. We need
clean air and clean forests to love in.
Why do you want to go to America?
20 : Because I want to be a doctor.
And I want to help sick people in my country.
15 : Do you like learning ? I like learning. I want to learn about the earth.
Let's learn with each other.

(キャラクター番号 15)

name : Tommy. I'm from south..
I want many friends. I want to be
free. <後略>



ねらい

基礎データの構築が生徒自身によって行われるため、師が場面設定をするのではなく、生徒自身が場面設定（ネットワーク化）を行っていく。「他の人とつながりたい」という生徒の意志、もしくは本能的な欲求から生まれる活動なので「対話をさせよう」と無理強いしなくても、自然に活動は活発になる。生徒の到達目標は生徒のコミュニケーション意欲と英語力に左右されるものの、インタラクティブな活動がお互いの意欲を刺激し、その瞬間、その場で生徒の到達目標が高められていくと考えた。

当初、キャラクター化する対象は「人間」のみを考えていたが、人間以外に、鹿、ライオン、市場に並んでいる魚の写真を用意して、キャラクター化した。この試みは異種、異文化同士の相互交流を通して、環境問題に対する発言が交換されることを目的とした。

事前の準備

*用意する物

- 写真（フリー画像CD-ROM）を印刷し、それぞれに通し番号をつける。
- 相互交流した相手の情報を記録するワークシート
- セロハンテープ（教室の壁に、写真を貼るため）

*スタディノートへは「ゲスト」でログインする。

*補足

- 学年のレベルや各単元に応じて、基礎データ作りの段階でターゲットセンテンスを盛り込ませる。
これにより全学年、どの単元でも応用がきく。本時では want to / need to などを使って、自分のしたいこと、必要なことをデータに入れた。
- コンピュータを利用しなくても教師が生徒のデータを配達してやることでネットワーク作りを支援できるが、生徒相互の交流が活発になってくると、データを手渡すだけに追われてしまう。その点、スタディノート上で活動を行うと、データは教師の手を煩わすことなく交換されるので、教師は机間巡視等の支援に集中できる。

この授業を行った背景や感想

「子どもを社会で勝ち抜けるようにするために、少しでも多くの知識を伝承していく」という考えがある。しかし、現代はかつての「競争社会」のままなのであろうか。少なくとも、これから私たちが進もうと求めている社会は「お互いにつながり、共存し、助け合っていく社会」なのではないだろうか。そう考えると、インターネットに代表されるような、ネットワーク社会の発達にもうなずける。日々、人と人との繋がりが生まれ、その繋がりの中で補い合い、支え合っていく現象が、私たちの周りに猛烈なスピードで形成され始めている。「競争」ではなく「協奏」していこうとする私たちの意志、もしくは命の繋がりをもとうとする本格的な活動を、ネットワーク活動という授業の中で求める試みが始まったように思える。

モラルの問題

今回の授業では生徒の個人IDでログインせずに、ゲストIDでログインした。そのため発言の責任度が低下する恐れがあった。ところが本時では悪意のある発言はなく、好意的な発言が多く見られた。

このことから、本時のような「好ましいネットワーク社会を創ろう」とする授業が、インターネット世界にいずれ入っていく生徒たちにとって、そのモラルを学んでいく良い機会になったと感じている。

スタディノートの応用

スタディノートは架空の人物になりきってロールプレーするような活動にも、たいへん有効なものであると考える。たとえばロールレタリングを基本とした心理分析、心理治療（家族療法など）への応用も可能ではないだろうか。

AETとの関わり

本時ではAETも生徒と同じようにキャラクター化に参加してもらった。AETはキャラクターの一人としてネットワークに入り、ネットワークの内から生徒と関わる。JTEは机間巡視を行い、ネットワークの外から支援を行う。授業の中でAETとJTEは相互に連絡を取り合い、内部、外部の両面から生徒の支援にあたることができた。これにより、情報が一人の生徒に集中し過ぎたり、不足し過ぎたりすることを制御できた。

長野県塩尻市立広陵中学校 TEL :0263-53-3537 FAX :0263-51-1602
 (koryojhs@po.shiojiri.ne.jp)http://www.shiojiri.ne.jp/~koryojhs/index.html
 小林智芳 (summit@avisnet.or.jp) http://www.avisnet.or.jp/~summit/index.html

スタディノートを用いた社会科の授業実践

富山県滑川市立西部小学校

その1：お店やさんしらべ

- 1 校種 小学校
- 2 学年 第3学年
- 3 教科 社会科
- 4 单元名 「わたしたちのくらしと商店」
- 5 使用教科 東京書籍
- 6 指導者 3年1組担任 橋場 潤
- 7 達成目標



授業者 橋場先生

- ・品物売るためのお店の工夫や努力を指摘することができる。
- 8 学習活動の概要

- ・子供たちは自分の家の買い物日記をつけるうち、消費者としての母の思いを知ることになる。そのことがきっかけとなり、各自が調査活動を開始した。自分で調べて分かったこと、考えたこと、疑問に思ったことをスタディノートでまとめた。3年生はコンピュータの操作が未熟なので、今年度6年生が作ったデータベースを見せたり、実際に6年生がマンツーマンで操作を指導したりして、データを作成することができた。また、データ作りの補助として、教師が撮影した商店の様子を写した写真を[みんなのフォルダ]に登録すると、子供はその写真をデータ作りに活用した。

9 ねらい

- ・データベースに登録した自分のデータをもとに、調べたお店について話し合うことで、お店の工夫や努力についての自分の考えを話すことができる。
- ・お店の工夫や努力を、「交通の便」「価格」「施設」「品質」「品数」「お客さんへの態度」の6つの観点の中から1つ以上の観点で説明できる。
- ・話し合いの中から、自分と友達の指摘するお店の工夫や努力、考えの異同を指摘することができる。
- ・お店の人の工夫や努力が消費者のためになされていることを説明できる。

10 事前準備

- ・種類リストの作成「意見」
- ・キーワードリストの作成「行きやすさ、施設、種類、新鮮さ、価格、その他」
- ・地域の商店の外観または内部の様子をデジカメで撮影し、[みんなのフォルダ]に登録

番号	種類	店名	住所	年月日	キーワード
1	意見	おたけいん	滑川市	1999年11月2日	しそつーすのた
2	意見	おたけいん	滑川市	1999年11月2日	行きやすさ
3	意見	おたけいん	滑川市	1999年11月2日	おたけいん
4	意見	おたけいん	滑川市	1999年11月2日	おたけいん
5	意見	おたけいん	滑川市	1999年11月2日	おたけいん
6	意見	おたけいん	滑川市	1999年11月2日	おたけいん
7	意見	おたけいん	滑川市	1999年11月2日	おたけいん
8	意見	おたけいん	滑川市	1999年11月2日	おたけいん

新しいしらべ
 どちらへみたことはおきくさんの物
 です。
 しらべたところはバスです。
 人めになずうははくのおたけいんじりんにから
 80にんでした。
 こんどはコメリです。コメリの人の物
 は50にんから40にんでした。
 ぼくは、なぜいくおとあんなぼりいかにいみせがあるの
 かまだわかりませんまだしらべたいです。

11 遅れがちな子供への手立て・配慮

- ・子供たちの中には、コンピュータ操作の習熟度の開きが見られた。操作になかなか慣れていない子供には、慣れた子供がリーダー的役割を果たして教えたり、上学年が相談にのったりするように助言した。
- ・自作の絵や文で画面を作った場合、コンピュータの操作にたけていない3年生の子供が作る画面は、説得力のあるものにはなりにくい。しかし、[みんなのフォルダ]の機能を利用し、みんなが自由に取り込めるようにしたことで、自分の考えをなかなか画面に表現できない子供も分かりやすく表現することができた。また、子供が持ち込んだ資料も[みんなのフォルダ]に入れたところ、友達の利用し、自分の考えをそれまでと違った角度から考えていく子供も現れた。

12 情報倫理にかかわる留意点

- ・商店の取材で写真やビデオを使用する場合、商店の許可を得ないとトラブルの原因となる。子供たちの調査活動を保証し、教師がより効果的な取材をするためにも取材許可の必要性を痛切に感じた。

13 授業を通しての感想

- ・データをつくる時、友達から教わったり教え合ったりすることが多々あり、子供が相互に助け合う気持ちが高まり、コンピュータに慣れ親しむ態度が、クラス全体に広まった。また、コンピュータを利用してデータをまとめる活動は、自分の考えを整理したり分類したりすることになり、社会事象を自分の生活とのかかわりで考えることになった。
- ・スタディノートを利用して話し合うとき、子供たちの目の前には、いつも発表者の画面がある。3年生の中には、声だけでは、なかなか理解できなかったり、資料提示があっても見にくくわかりにくかったりして、発表内容をじっくり聞けない子供が多い。しかし、画面を見ながら発表を聞くことで、普段なかなか落ち着いて発表を聞けない子供も落ち着いて聞く姿が見られた。

(文責：滑川市立西部小学校 水橋 渉)

その2：三人の武将大百科

- 1 校種 小学校
- 2 学年 第6学年
- 3 教科 社会科
- 4 単元名 「三人の武将と戦国時代」
- 5 使用教科書 東京書籍
- 6 指導者 6年1組担任 水橋 渉
- 7 達成目標



授業者
水橋先生

- ・織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の3人のどの武将も天下統一に大きくかかわっていることを説明できる。
- ・天下統一には、キリスト教や火縄銃の影響が大きくかかわっていることを説明できる。
- ・3人の武将の生き方から、人間のたくましさを指摘できる。

8 学習活動の概要

・「戦国の世、天下を統一したのは誰か」という課題で子供たちは、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の3人の武将の中から自分で予想した武将を一人選び、資料を集め、問題を追求していった。追求の途中からスタディノートを利用し、考えを新聞にまとめて、まとめ終わった子供からデータベースに登録した。自分の考えがどの資料から導き出されたか、分かりやすく見やすくなるような新聞作りを意識して、[みんなのフォルダ]から資料を取り込む子供が多かった。また、自分の作ったクイズや新聞を電子メールで送ったりデータベースから友達の新聞をコピーしてデータ作りの参考にしたりする子供の姿を担当が話題に取り上げ、相互に学び合う学習の大切さを訴えた。学習が深まると、もちろん武将について詳しくなるが、それと同時に武将との対比から自分自身を知り、新聞の内容や考え方も深まりのあるものとなる。そこで、最初につけた新聞の題名を見直す場を設け、自分の思いや考えが伝わる題名に子供たちは変更した。一斉授業では、データベースを利用して「3人の武将から何を学んだか」を課題とし、話し合い活動を行った。

9 ねらい

- ・データベースに登録した自分の新聞をもとに武将の戦い方や業績について話し合うことで、自分の調べた武将と天下統一を関係づけることができる。
- ・自分の調べていない武将についての友達の発表を聞くことで、その武将と天下統一とのかかわりを指摘することができる。
- ・長篠の戦いについて発表する友達の考えを聞いて、長篠の戦い以後、鉄砲の所有が天下統一をするために重要なカギとなったことを指摘できる。
- ・武将に対する自分の見方、考え方を語る中で、3人の武将の人柄、その願いや考え方、生き方を推測することができる。

10 事前準備

- ・種類リストの作成「織田信長，豊臣秀吉，徳川家康，3人（の）武将，戦国時代」
- ・キーワードリストの作成「安土城，江戸城，大阪城，桶狭間，刀狩り，キリスト教，ザビエル，土農工商，関ヶ原，太閤検地，長篠，人質，火縄銃，プロフィール，本能寺，統一，身分制度，楽市楽座，その他」

11 遅れがちな子供への手立て・配慮

- ・子供の追求する時間は，通常の社会科の時間で確保できるが，コンピュータで考えをまとめるときは，別に時間が必要となってくる。そこで，まず，データ作りの時間をできるだけ確保することに努め，始業前の自由時間，クラス毎に割り当てられたコンピュータ室解放時間などに自主的に使えるよう配慮した。（今回の場合，授業時間としてデータ作りの時間は2時間程度）
- ・データを作るとき，教科の能力だけではなく，芸術的センスが大きく左右する。グラフィックの表現能力と言語能力がどうしても必要となってくる。つまり，今までの学習の積み重ねや経験が大切になってくる。そこで，子供同士が有効にかかわり，相互に学び合う環境作りに努めた。早く進む子供が遅れている子供を助けたり，遅い子供が早い子供のデータや考え方を見ることで自分の学習に見通しをもち，新聞作りがスムーズになった。また，昨年度の6年生が作ったデータベース，1学期に自分たちが作ったデータベースを活用することである。遅れている子供の原因が，グラフィックの表現能力の場合，今までのデータベースの表現方法を見ることで，そこからヒントを得，自分の画面作りの参考にするようにした。
- ・特に気をつけなければならないのは，教師の気持ちのゆとりである。進度に差が出てくると，どうしても子供に無理強いしたり授業を急いだりしてしまう。そうすると，結果的に子供の心に焦りが出て，いい加減な学習（データ作りを含む）になりがちである。時間的な限界や制約はどうしてもさけることはできないが，教師は子供の主体性を尊重し見守る姿勢を大切にしたいと自分に言い聞かせている。データベースを自作して，一斉学習で広めたり深めたりする場合，教科の中で単元構成をよく考え，どこで話し合いの場を設けるかが重要である。子供たちが聞き合いたいと感じ出したそのタイミングが大切である。遅れている原因は様々であるが，その原因を教師がキャッチし子供一人一人にあった支援をする必要がある。

12 情報倫理にかかわる留意点

- ・資料集の資料をスキャナで読み取り，[みんなのフォルダ]に入れ，子供たちがデータ作りで活用した。今回の資料集は，一人一人の子供が教材として購入し，外部に出さなければ問題がないということだったが，今後教師は著作権について正しい知識を学ぶ必要がある。

13 授業を通しての感想

- ・スタディノートで学習のデータを作り，データベースに登録してそれをもとに話し合いをする活動を通して，毎回思うことは，普段の教室での授業と比べてどの子供も生き生きと自分の考えを息長く話すことである。また，聞く子供も熱心に聞き入る。それは，子供自身が作ったデータを語る時，分かったことだけでなくデータを作ったときの思いや工夫がその画面にだぶって表れるからである。つまり，その子供だけが作り得た世界でただ1つの画面は，聞く者にとっても耳だけで聞くときと違って迫力があり，その子自身を理解することにつながるからである。
- ・データを作るとき，子供たちは無意識のうちに自分の画面をみってくれる相手を意識し，対話をしているものと思われる。コンピュータの画面を通し，自己を主張し，相手を理解し，そして自分の中にその良さを取り込もうとする逞しさを子供の画面に見ることができる。
- ・今回は，自分の考えを新聞にまとめていった子供と，コンピュータで新聞を作ることに楽しさを見いだす子供がいた。どの子供も授業でコンピュータを取り入れることに喜びを見いだしている。それは，今までの授業と比べて，スタディノートは表現の方法に選択肢があるからだと思う。例えばデータをつくる時に，グラフィック（絵）から入る子供，テキスト（文）から入る子供，サウンドから入る子供と様々である。子供たちは自分にあった表現方法を選び，自分らしさを発信している。それと同時にデータをまとめていく（問題を解決する見通しをもつ）能力が高まっていく。以前は，テキストとグラフィックが中心であったものが，音を通して，映像を通して自分を表現できるようになった。それは，データを物として扱うのではなく，人として触れることにつながっているのではないかと思われる。

（文責：滑川市立西部小学校 水橋 渉）

滑川市立西部小学校の児童が作ったデータベースを，東京家政学院筑波女子大学の余田先生のホームページで見ることができます。 <http://www.kasei.ac.jp/eco/ECONews.html> へアクセスして見ましょう。また，児童・生徒がスタディノートで作成したデータベースを，ホームページに載せている学校がありますので，ご紹介します。

つくば市立桜南小学校 <http://www.ounan-es.tsukuba.ibaraki.jp/>

つくば市立並木小学校 <http://www.accs.or.jp/namikis/>

北安曇郡松川村立松川小学校 <http://cert.shinshu-u.ac.jp/sch/sho/matukawa/matukawa.html>

今回のスタディノートを活用した授業実践報告について，ご感想・ご意見をECONewsへお送り下さい。小林先生，橋場先生，水橋先生，松川小学校の丸山先生，柏木小学校の五十嵐先生，並木小学校の毛利先生，お忙しいところを授業実践報告をお寄せ下さいまして，ありがとうございました。今号でご紹介できなかったものは，次号以降で，ご紹介してまいります。ご期待下さい。

お知らせ その1

重要

98年度 ECO News
更新カードをお送り下さい！！

ECO News更新カードを同封いたしました。内容をよくお読みになり、変更等がある場合は、赤でご記入の上、ECO Newsまでご返送下さい。

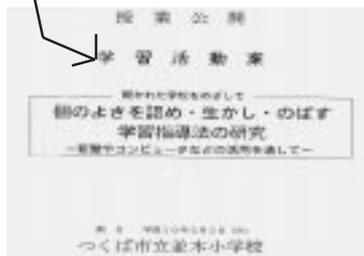
人事異動等で、コンピュータ担当者が代られた場合は、次の2つの変更方法があります。どちらかをお選びの上、手続きをして下さい。

- 1 新担当者がECO News登録番号を引き継ぐ場合
 - ・新担当者は、更新カードのお名前等を変更してお送り下さい。
 - ・旧担当者は、新規登録をして下さい。配付を受けたコースウェアも一緒に持って移動される場合は、別に手続きが必要です。ECO Newsまで、電話またはメールでご連絡下さい(コースウェアを残して移動される場合は、コースウェア変更の手続きは不要です)。
- 2 旧担当者がECO Newsの登録番号を持って移動する場合
 - ・旧担当者は、更新カードの勤務先等を変更してお送り下さい。
 - ・新担当者は、新規登録をして下さい。また、コースウェアの配付を受けている場合は、担当者変更の手続きをしていただく必要があります。ECO Newsまで、電話またはメールでご連絡下さい。ご返送は、4月1日以降にお願いいたします。締切りは、4月24日です。

ちょっと、ご注目！

これは、去る2月3日つくば市立並木小学校で開催された公開授業の”学習活動案”です。通常、指導案といわれることが多いのですが、ECO会員の学校では、授業とは児童の自ら学ぶことを教師が支援とするということから、「支援案」とするところ

が増えてきました。今回並木小学校では授業の主体は、あくまで児童であるという立場から児童を主語とする「活動案」を作成されました。



お知らせ その2

重要

日程決定！！

'98 スタディ夏の研修会 第一報

スタディインストラクター研修会

日程：1998年6月27日(土) 13:00 ~

28日(日) 15:00

会場：シャープ市谷ビル(東京)

対象：今年度スタディ地域研修会開催を予定している
担当者&インストラクター

内容：スタディ地域研修会の具体的な内容の検討
スタディ中央研修会

日程：1998年8月3日(月)9:00 ~ 4日(火) 16:00

会場：シャープ栃木研修所(栃木県矢板市)

内容：学内研修会の持ち方
(のお問い合わせはECO News)

信州大学教育学部公開講座

「メディアコーディネータ養成講座」

日程：1998年8月8日(土) ~ 9日(日)

会場：信州大学教育学部

附属教育研究実践指導センター(長野市)

内容：マルチメディア教材(コースウェア)の開発

信州大学教育学部公開講座

「校長先生・教頭先生のためのインターネット入門」

日程：1998年8月10日(月)

会場：信州大学教育学部

附属教育研究実践指導センター(長野市)

対象：校長・教頭

内容：教育におけるインターネットの活用他

(のお問い合わせは、東原先生 026-237-9296

e-mail/higashi@gipnc.shinshu-u.ac.jp)

東京家政学院筑波女子大学公開講座

「スタディノートを中心としたネットワーク利用の授業展開」

日程：1998年8月下旬予定(未定)

会場：東京家政学院筑波女子大学(茨城県つくば市)

内容：スタディノートを活用した授業の指導案他

(のお問い合わせは、余田先生 0298-58-6332

e-mail/yoden@cs.kasei.ac.jp)

コンピュータ教育利用夏季研修会(仮題)

日程：1998年8月7日(木) ~ 9日(土)

会場：シャープ天理研修所(奈良県天理市)

(のお問い合わせは、SSP 06-625-3233)

私のおすすめ品

余田義彦



ソニーのデジタルカメラ(マビカ)を一台買いました。このカメラは、640×480の解像度で、フロッピーディスク(DOS/Vフォーマット)を内蔵でき、撮影した画像をフロッピーに直接、JPEG形式で保存できます。ですから、そのフロッピーを抜いてパソコンにさせば、変換の必要なく、ほとんどのソフトでその画像を使用することができます。フロッピーには、高精細モードで約20枚、標準モードで約40枚の画像を記録できます。ですから、学校などでみんなで共有して使っても、それぞれ各自が自分のフロッピーを挿して使い、使い終わったら、そのフロッピーを抜いて個人で管理するようになれば、管理上のややこしい話はなくなります。画質はこのクラスとしてはまずまずです。サイズは少し大きめでかさばりますが、変換ケーブルや何やかやを持ち歩く手間を考えると私は気になりません。それから、ズーム機能やフラッシュ機能がついている点も便利です。

お願い&編集後記 スタディノートの特集号をお届けいたします。実践報告は、これから、スタディノートを授業に活用しようとしていらっしゃる先生方に、大いに参考となるのではと思います。

スタディ地域研修会の日程等が決まりましたら、ECO Newsへご連絡下さい。今後のECO News紙上でご紹介いたします。

ECO New 21世紀教育研究所

〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-3-10

0298-50-3321 fax0298-50-3330

e-mail econews@green.ocn.ne.jp

